

# ききょうフォーラム通信



## いせはら男女共同参画フォーラム報告

令和3年3月15日～28日にオンラインで動画を配信しました



① 若年女性を取り巻く現状  
-ステイホームできない少女たち-  
NPO法人BONDプロジェクト  
代表 橋(たちばな)ジュン 氏



② 女性活躍とイクメン休業に  
成功した企業の実践例  
積水ハウス株式会社執行役員  
ダイバーシティ推進担当※  
伊藤 みどり 氏

### ● BONDプロジェクトの立ち上げ

講演内容は裏面へ

※R3.1.25収録時点の役職

2006年、街で出会った気になった女の子がいたら、声を掛け、話を聞かせてもらう活動からBONDプロジェクトの活動が始まりました。終電が終わっても立っている子、いつも同じ場所にいる子。最初は警戒しているが、顔見知りになると、「家で暴力を振るわれている」「お金がなく、泊まる場所もないから声を掛けてくれる人を待っていた」など、いろいろなことを話してくれるようになった。その子たちを放っておくことが出来ずに食べ物や場所を提供するようになった。しかし、ある子との出会いを通じて、「話を聞いて相談先に伝えるだけではどうすることも出来ない子、悩んでいても誰かに相談する、または、**きちんとした相談先につなげられない子もいる**」ことに気づきました。**そのような子と、きちんとした大人達をつなぐ「接着剤」の役割を果たす人間が必要**と考え、橋さんらはこのプロジェクトを立ち上げたそうです。

### ● BONDプロジェクトの活動内容



活動内容は、次の3つを柱としています。

- 【聴く】電話相談や街頭パトロールなどで女の子のありのままの声を聴き表現できる場を作る。
- 【伝える】フリーペーパーの発行や講演会、啓発活動で女の子の声を知ってもらう。
- 【繋げる】他の専門機関や一時保護、同行支援など、一人ひとりに見合った支援、大人につなぐ。

### ● コロナ禍での活動

ステイホームが求められる中、家が安全でない、居場所のない子はどうなっているのでしょうか。

BONDプロジェクトでは、出張面談が出来ない状況になったため、相談者に緊急アンケートを実施しました。その結果、「**気軽に相談できる支援者がほしかった**」「家以外で安全に過ごせる場所がほしい」という声が寄せられました。また、「生活に困って借金、パパ活、援助交際をした」と回答した子もいました。「その子たちに、『だめなことはだめだ』と伝えたいが、**この状況下でも女の子たちを誘い出す大人がいることが大きな問題**」と橋さんは話します。

「BONDプロジェクトでは、オンライン面談の定期的な開催や、ネットパトロールの強化をしてきました。しかし、コロナの影響なのか、加害性のある危険なアカウントを発見し通報しても、それを防止する機関が機能せず、削除できない時期が続きました。私たちは、困っている子たちが危ない方へ行かないように、この状況下でも相談室を開けています」とも話します。

橋さんは「何かあったときは私たちの所にぜひつないでほしい」と強く語りかけ、講演を結ばれました。

橋さんの講演動画(DVD)は伊勢原市立図書館(2階AVカウンター)でご覧になれます。

裏面に続く

# 女性活躍とイクメン休業に成功した企業の実践例

積水ハウス株式会社 ESG 経営推進本部執行役員ダイバーシティ推進担当\* 伊藤 みどり 氏

※R3.1.25収録時点の役職

## ● 能力に男女差はない

営業職は圧倒的に男性が多かったため、2005年より多くの女性営業職を採用して、定着に向けて「全国女性営業職交流会」や「女性営業を受け入れる店長への研修」などの取組をしてきました。

技術職についても、定着率は高いものの、育児休業後の復帰時には裏方の仕事に回る状況が散見され、女性の現場監督は少ない状況にありました。現場監督の「妊娠時の働き方ガイド」作成や、「女性技術系社員交流会」などの取組で**女性が働く環境の整備を進めました。**

**これらの取組の結果、営業職、現場監督ともに女性比率は大幅に上がっています。**

## ● 経営トップの姿勢

社長がスウェーデンのストックホルムに出張で訪れた際、公園でベビーカーを押しているのがほとんど男性だったことに衝撃を受けました。そして男性は3ヶ月育児休業をとるのが当たり前ということでした。

それ以来、イクメン休業(男性の育児休業)の取組を全社的に進めてきました。

**最も重視していたのが意識改革**で、社長自らイクメン休業に込めた意義や期待を発信し、有識者の方にも父親が育児に参画することの重要性を語っていただきました。役員から新入社員までが参加するさまざまな会議・研修でも**イクメン休業の完全取得の意義を繰り返し発信しました。**



## ● イクメン休業の効果

イクメン休業を取得した社員からは、「積極的に育児に参加するようになった」「育児中の女性メンバーに対する理解が深まった」という意見が多くありました。

**会社の風土への影響**も大きく、「コミュニケーションが取りやすくなり、仕事の見直しや助け合いの風土が生まれた」「1人で対応してきた業務も複数で対応するようになり、イクメン休業以外でも休んで業務が滞る心配がなくなった」など、**働き方改革の面でも効果を実感**する声が寄せられています。

伊藤さんは「**家族が豊かに幸せを感じて生活ができることに、男性の育児休業が大きく寄与すると思っています**」と話され、講演を結ばれました。



伊藤さんの講演動画は次のURLまたはQRコードからご覧になれます (令和4年3月まで)

URL <https://www.city.isehara.kanagawa.jp/docs/2020010600241/>

# アンガー(怒り)マネジメント入門講座報告 (令和3年3月13日開催 講師:畑 さち子 氏)

この講座では、イライラや怒りの感情との向き合い方を教わりました。

**重要なことは3つ。**

### ①衝動のコントロール(6秒)の対処

衝動的な怒りが湧いて、理性が働くまでに6秒かかるといわれています。

怒りが湧いたら例えば2回深呼吸をして、理性が働くまでの時間をつくとよいそうです。

### ②気持ちを中心として許せる、まあ許せる、許せないという三重丸で考えてみる

### ③変えられる・変えられない/重要・重要でないという軸で4分類してみる

変えることができない重要でないものは、放っておく、関わらないことも大事だと教わりました。

まだまだ続くコロナ禍に、自分の**アンガー(怒り)**と向き合い、内省を深める機会をいただきました。



編集 伊勢原市男女共同参画推進委員会 編集部会

発行 伊勢原市人権・広聴相談課

人権・男女共同参画推進係

伊勢原市田中 348

電話:0463-94-4716 FAX:0463-92-9009

E-mail: jinken@isehara-city.jp

### 【編集後記】

我々の活動もコロナ禍で大きな変化がありました。オンラインでの動画配信は、自宅等で参加ができるようになり、より多くの方に届くきっかけにもなったのではないかと思います。

今後も様々な取組を行い皆さまに有益なものを届けていきたいと思っています。